

チケット発売：令和6年7月29日（月）12:00より

お申込み： 窓口 横浜市鶴見区民文化センター サルビアホール（9:00～20:00）
電話 0120-240-540（カンフェティ 平日10:00～18:00）
WEB <https://yokohama-nohgakudou.org/ticket/>
※こどもチケット・車いす席は、サルビアホールにて取り扱い



お問合せ： OTABISHO 横浜能楽堂
横浜市西区みなとみらい2-2-1 ランドマークプラザ5階
TEL：045-263-3055

主催：横浜能楽堂（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）

共催：横浜市鶴見区民文化センター サルビアホール（神奈川共立・ハリマビシステム共同事業体）

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

独立行政法人日本芸術文化振興会



琉球舞踊 鶴見ちゆらしま座

横浜能楽堂は休館中も琉球芸能を上演します！

横浜能楽堂・サルビアホール 提携企画公演



横浜能楽堂について：

JR桜木町駅から徒歩約15分の掃部山公園に隣接し、築約150年の能舞台を有する古典芸能の専門劇場、平成8年の開館以来、琉球芸能の上演にも力を入れ、平成26年度には「琉球舞踊 古典女七踊」で文化庁芸術祭大賞を受賞。令和8年6月まで、大規模改修により休館中。休館中はランドマークプラザ5Fに仮拠点「OTABISHO 横浜能楽堂」を開設。能・狂言に関する情報発信やミニ展示、グッズ販売、不定期でレクチャーやワークショップ等を行っています。



横浜市鶴見区民文化センター サルビアホール
〒230-0051 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央 1-31-2 シークレイン内 電話 045-511-5711

交通のご案内：
JR 京浜東北線・鶴見線「鶴見」駅 東口から徒歩2分 京急本線「京急鶴見」駅 西口から徒歩2分
※内容・出演者に変更がある場合がございます。あらかじめご了承下さい。
※お買い求めいただいたチケットは公演中止の場合を除き、変更払い戻しはいたしません。
※公演中止の場合に旅費等の補償はできません。チケット券面額以外は一切ご返金できません。



開催日時：令和6年10月19日（土）

第1部 13:00開演（12:30開場／14:45頃終演予定）

第2部 16:30開演（16:00開場／18:15頃終演予定）

会場：横浜市鶴見区民文化センター サルビアホール 4階ホール

入場料：各部 一般 3,000円 こども（小学生以下）500円（全席指定）



横浜能楽堂は令和6年から令和8年まで改修工事のため休館中。その間は「つなぐ つながる」をキーワードに横浜市内18区のさまざま場所で公演や講座を開催しています。今回は、大正時代以降に沖縄から多くの人に移り住み、琉球芸能が地域文化として継承されている横浜市鶴見区にて、琉球舞踊

公演を開催します。横浜ゆかりの舞踊家・演奏家や、沖縄から人間国宝の大湾清之、比嘉聰をはじめ、第一線で活躍する舞踊家・演奏家が出演。美しい古典舞踊や躍動感あふれる雑踊、創作舞踊まで、バラエティ豊かな演目をお送りします。

第1部 午後1時開演

かぎやでふう 女特牛節 たかでーらまんざい 高平良万歳 うーびち 芋引

東江裕吉、知念亜希

新垣悟

嘉数道彦、宮城茂雄

比嘉清子

<休憩>

ろくだんすががら 箏曲独奏 六段菅攪 うみのさち 海の幸

名嘉ヨシ子

阿波連とも子

<休憩>

むんじゆる か な 加那よー はとうまぶし 鳩間節 ばざんがー 馬山川 (監修：瀬名波孝子)

知花小百合

宮崎花澄

具志幸大

美男：新垣悟、宮城茂雄

美女：知念亜希、仲嶺夕理彩

醜男：東江裕吉、嘉数道彦

醜女：比嘉清子、知花小百合

地謡

歌三線 新垣俊道、仲村逸夫、仲村渠達也

箏 名嘉ヨシ子

笛 大湾清之

胡弓 森田夏子

太鼓 比嘉聰



撮影：根岸ふじ枝



撮影：大城洋平

第2部 午後4時半開演

あまかー 天川 わかしゆ 若衆ゼイ (指導：谷田嘉子、金城美枝子) みよおさまるくどうち 御代治口説 はまちどうり 浜千鳥 か な あまかー 加那よー天川

東江裕吉

宮崎花澄、仲嶺夕理彩

具志幸大

宮城茂雄

新垣悟、嘉数道彦

<休憩>

じゅうしちほらぶし 十七八節

老女：児玉清子

僧侶：児玉由記子、児玉和之、児玉信、山田啓子

<休憩>

たんなちやめー 谷茶前 ていーまとう 汀間当 はなふう 花風 くるしまくどうち 黒島口説 (指導：又吉静枝)

比嘉清子、仲嶺夕理彩

知花小百合

知念亜希

知花小百合、比嘉清子、新垣悟、具志幸大

嘉数道彦、仲嶺夕理彩、宮崎花澄

地謡

歌三線 新垣俊道、仲村逸夫、仲村渠達也

箏 名嘉ヨシ子

笛 大湾清之

胡弓 森田夏子

太鼓 比嘉聰



撮影：仲間勇太

琉球舞踊とは

「芸能の宝庫」と呼ばれる沖縄で受け継がれてきた舞踊。その中でも舞台芸術として洗練されてきたものが「琉球舞踊」です。「古典舞踊」「雑踊」「創作舞踊」の3つに分類されています。

「古典舞踊」(1429年–1879年)

琉球王朝時代に中国からの使者(冊封使)を歓待するための芸能として大成され、琉球古典音楽を伴奏に踊られます。祝儀舞踊として宴の冒頭に踊られる「かぎやで風」、組踊「万歳敵討」から抜粋・再構成され、敵討ちの決意を気迫に満ちた動きで見せる二才踊「高平良万歳」、艶やかな紅型衣裳を着て、抑制された動きで女性の美しさや恋心を表現した女踊「天川」などがあります。

「雑踊」

明治・大正時代に芝居小屋で創作された舞踊。軽快なリズムの民謡を伴奏音楽に取り入れ、庶民の風俗を描いた娯楽性の強い作品が多いのが特徴です。名優として知られる玉城盛重や伊良波尹吉らによって「鳩間節」「浜千鳥」「加那よー天川」などが作られ人気を博しました。

「創作舞踊」

戦後に様々な舞踊家により創作された舞踊。古典舞踊や雑踊の技法を基本としながらも、新たな可能性の広がりを感じさせる題材や曲を取り入れ、芸術志向が強いのが特徴です。本公演では阿波連本啓作の「海の幸」、初代児玉清子作の「十七八節(『黄泉への旅』から抜粋)」が踊られます。